



日本甲虫学会 Coleopterological Society of Japan

HP : <http://kochugakkai.sakura.ne.jp/>

Facebook <https://www.facebook.com/coleopterology>

Twitter : ハッシュタグ #甲虫学会

<https://twitter.com/hashtag/%E7%94%B2%E8%99%AB%E5%AD%A6%E4%BC%9A>

国立科学博物館附属自然教育園（東京都港区白金）の甲虫相調査〈速報編〉

日本甲虫学会 会長 野村周平

先の会長挨拶でお知らせしましたように、附属自然教育園の昆虫相調査を昨年度から実施しています。そろそろ調査結果が蓄積してまいりましたので、その結果の一部を以下に速報たく存じます。昨年度の調査は、調査許可が下りるのが遅れたため、7月下旬から開始せざるを得ませんでしたが、今年度は4月当初から開始することができ、春季、初夏の甲虫相を調査することができました。他の調査員の方々の調査結果のとりまとめは各自にお任せしておりますので、いずれご報告いただくことになると思います。その一方、野村の方では効率を考えて、5月にさなぎ粉トラップ、6月に中瀬式ライトトラップ、7月にバナナトラップを設置し、それぞれ3~4回の回収を行いました。さなぎ粉トラップではオサムシが全く入らず、種数も少なかったようですが、各地でかなり少なくなっていると思われるクロサビイロハネカクシ(下図左)が1頭入り、チビシデムシが多数得られたのが収穫でした。中瀬式ライトトラップは、地上1mの低所と、地上5mの高所とに分けて設置回収を行いました。その回収成果はまだ十分に解析していませんが、1999年の土壌昆虫調査で唯一頭得られていたニセヒゲブトムシが高所で(下図右)採集できました。これについてはまだ学名がついていなかったもので、近日中に命名記載予定です。バナナトラップでは7月上旬に多数のカナブンが入り、下旬ではノコギリクワガタ、コクワガタ、カブトムシなどを採集出来ました。1頭のみでしたが、コカブトムシが採集されました。この調査はまた来年度にかけても継続されます。



左：さなぎ粉トラップで採集されたクロサビイロハネカクシ；右：中瀬式ライトトラップ（高所）の設置状況（白矢印）。

秋の地域例会 講演タイトル

<http://kochugakkai.sakura.ne.jp/event/event.html>

- 名古屋** 8月27日(日) 三重県環境学習情報センター
澤田義弘「日本産ムクゲキノコムシ科についての新知見」
伊澤和義「ルリイクビチョッキリ亜属の新種について」
東京 9月9日(土) 国立科学博物館附属自然教育園
秋田勝己「ゴミムシダマシの魅力」
大阪 9月23日(土) 大阪市立自然史博物館
古川恒太「ミジンムシ科について」(仮題)

2017年度奨励賞候補者募集 (会員による他薦か自薦)

<http://kochugakkai.sakura.ne.jp/committee/committee.html#gakkaiشو>

- ・年齢 35歳以下の若手会員
- ・過去数年(5年程度)に著しい成果を挙げ、将来を嘱望される会員
宛先(選考委員長): 大原昌宏 (e-mail: ohara@museum.hokudai.ac.jp)
期限: 2017年9月30日

和文誌さやばね N.S. 26号(2017年6月30日発行)目次

[http://kochugakkai.sakura.ne.jp/publication/sayabane/SayabaneNS\(26\).html](http://kochugakkai.sakura.ne.jp/publication/sayabane/SayabaneNS(26).html)

日本産ヒゲブトチビシデムシ類要説(VI)/タトウに対する提案/甲虫コレクションガイド8 釧路市立博物館の甲虫コレクション/近現代文化蛸学/コガネムシ科食葉群の後翅折りたたみ様式の比較形態学的研究/横浜市の止水性水生甲虫相に基づいて区分された4タイプの群集とその形成に影響を与える環境要因/種子島で採集した流水性甲虫類/*Thambus curvicarina* Hisamatsu という日本産コメツキダマシについて/沖縄県島尻郡久米島からのコガネムシ科甲虫6種の記録/奄美大島のカエルが食べた甲虫類/新潟県におけるヤマトオサムシダマシの記録/茨城県におけるカミヤコガシラミズムシの新産地/アオムネシタマムシを12月に奄美大島で採集/京都府から初記録のジョウカイボン科甲虫6種/ツマアカマルハナノミダマシ対馬の記録/セアカヒメコメツキダマシ中部地方からの記録/ネアカヒメフトコメツキダマシの雌の形態/ヨツボシヒメゾウムシの新分布地/沖縄島におけるミカンカメノコハムシの最近の記録/チュウジョウケシタマムシの渡嘉敷島からの記録/徳之島におけるオオゾウムシの記録/沖縄島初記録のムツキボシテントウ/紹介「超拡大で虫と植物と鉱物を撮る-超拡大撮影の魅力と深度合成のテクニック(自然写真の教科書1)」/紹介「月刊むし・昆虫図説シリーズ9 日本のセンチコガネとその仲間」

日本甲虫学会 ニュースレター 第11号

2017年8月26日発行 ※本ニュースレターは主にHPの更新履歴に基づき、プレーンテキストにてご希望の方に不定期でメール配信します。お申込は下記サイトからどうぞ。過去の更新履歴も、PDFでご覧いただけます。配信停止ご希望の方はご連絡ください

<http://kochugakkai.sakura.ne.jp/newsletter/newsletter.html>

(web担当: 初宿 shiyake@mus-nh.city.osaka.jp)

【後記】2018年の「戌(いぬ)年の甲虫」をご推薦ください(今年はフチトリアツバコガネ)